

第3回国連防災世界会議 開催結果概要



国連防災世界会議とは

- 国連防災世界会議はグローバルな防災戦略を策定する国連主催の会議であり、第1回世界会議（1994年、横浜市）、第2回世界会議（2005年、兵庫県神戸市）ともに日本で開催。
- 第2回国連防災世界会議では、2005年から2015年までの国際的な防災の取組指針である兵庫行動枠組（Hyogo Framework for Action: HFA）を策定。

第3回国連防災世界会議の開催結果概要

第3回国連防災世界会議は、2015年3月14日（土）～18日（水）に仙台市で開催。

- 187か国の代表、国際機関代表、認証NGO等6,500人以上（25名の首脳級含む100名以上の閣僚、国連事務総長、UNDP総裁）が参加し、関連事業を含めると国内外からのべ約15万人以上が参加し、我が国で開催された国連関係の国際会議として最大級となった。
- 山谷防災担当大臣が議長を務めた。
- 天皇・皇后両陛下がご臨席のもと開会式が行われ、総理がホスト国を代表し挨拶をした。
- ハイレベル・セグメントにおいては、総理がステートメントを述べ、「仙台防災協カイニシアティブ」を発表し、今後4年間で計40億ドルの協力の実施及び計4万人の人材育成を行うことを表明した。

本体会議

- 仙台防災枠組2015-2030（Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030）、仙台宣言等の策定・採択
- 全体会合、閣僚級ラウンドテーブル（5セッション）、ハイレベル・パートナーシップ・ダイアログ（3セッション）、ワーキングセッション（34セッション）、展示等が実施された。

関連事業（パブリックフォーラム等）

- 総合フォーラム：「東日本大震災の経験と教訓を世界へ」をテーマに、日本政府・実行委員会等の主催により10のセッションが行われた。
- シンポジウム・セミナー：各自治体、省庁、大学、NGO・NPO、企業、地域団体等が主催するシンポジウム等を開催（参加数：約400）
- 展示会：東北の防災・復興に関する総合防災展等の展示会（参加数：約200）、防災産業展（出展数153社・団体）
- 情報発信等：被災地公式視察や歓迎レセプションを開催

会議の成果

仙台防災枠組2015-2030：「兵庫行動枠組」の後継枠組として、期待される成果と目標、指導原則、優先行動、関係者の役割や国際協力を規定。事前の防災投資、「より良い復興（Build Back Better）」、多様な主体の参画によるガバナンス、人間中心のアプローチ、女性のリーダーシップの重要性等、日本が重視する点が盛り込まれている。

仙台宣言：各国の防災に対する政治的コミットメントを表明。